

## 明石城 兵庫県明石市明石公園 1-27

江戸時代に譜代大名である小笠原忠政が2代将軍・徳川秀忠に命じられて築いた城です。明石の地は山陽道が通り、また瀬戸内海に面しており、淡路島や四国へのルートがあり、古来より交通の要衝でした。そのため徳川幕府が西国の外様大名の抑えの城として重要視していたとされます。現在も残る巽櫓（たつみやぐら）と坤櫓（ひつじさる）は国指定の重要文化財である。この巽櫓は明石城の前身である船上城（ふなげじょう）から、坤櫓は伏見城から移築されたといわれています。

外堀の南には、小笠原家の客分となっていた播磨の国で生まれで15年間で過ごした剣豪宮本武蔵(熊本での活躍が有名だが)が、この明石城で町割りを手がけたと言われる城下町が連なるし庭園も残っている。(掲示板)



内堀



大手門 正面



とき打ち太鼓の櫓



武蔵が手掛けた庭園の説明書



同左庭園



坤櫓（ひつじさる）（左）と巽櫓（たつみやぐら）（右） いずれも国指定の重要文化財



大手裏にある石垣は堅固な造りとなっている



明石の日時計(基準値点ではないが)



城から明石海峡が近くに見える